

問題

話すこと・聞くこと①

名前

年

組

田村さんたちのグループでは、学級新聞にどのような記事のせると決まっていますか？について、話し合  
いをしています。これを読んで問題に答えましょう。

田村…次の学級新聞にのせる記事について、話し合いたいと思います。なにか意見  
のある人はいますか。

大石…かんきようを守るためにわたしたちでもできることを、クラスのみんなから  
集めて、学級新聞でしようかいすると思います。

水野…なぜ、みんなから集めるのですか。

大石…いくつかの意見を組み合わせることで、もっとよいやり方が見つかるかもしれ  
ないと考えたからです。たとえば、食品のむだをなくすために、野さいの皮を  
むかずに、そのまま使うとよいという話を聞いたことがあります。（①）。  
ところが、わたしの友だちの家では、皮はむくけれど、それを土にうめて、  
ひりょうにしているそうです。この二つを組み合わせると、むだのない方ほ  
うを考えることができそうです。

田村…よくわかりました。二つの意見を合わせると、②よりよい考えがうかぶかも  
しれませんね。

西口…せっかく学級新聞にのせるなら、クラスの目ひようにしてはどうでしょうか。  
クラスの目ひようにすると、みんながわすれず実行できると思うからです。

田村…③  
③ それでは、わたしたちのグループでは、かんきようを守るためにできること  
をクラスのみなさんに書いてもらい、それをまとめる記事を書くことにした  
いと思います。また、それをクラスの目ひようにしてもらえるかどうか、先  
生に聞いてみましょう。

これは

## 問題1

話し合いの司会をしているのはだれですか。ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

ア 田村さん

イ 大石さん

ウ 水野さん

エ 西口さん

## 問題2

（ ）①（ ）にあてはまるものを、ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

ア そこで、野さいをたくさん使うことにしました。

イ それでも皮をすてはいけないと思います。

ウ しかし、中には皮が食べられないものもあります。

エ だから、料理の仕方をよく調べることが大切です。

## 問題3

――②「よりよい考え」とありますが、それはどのようなことですか。本文に書かれたことをもとにして、にあてはまるように書きましよう。

野さいの皮をむかずに使うようにするが、皮をむく場合は、

という考え。

## 問題4

――③の田村さんの発言は、話し合いの中でどのような役わりをしていますか。ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

ア 前の人の発言に反対して、自分の意見を言っている。

イ これまでの話し合いの内ようをまとめている。

ウ これまでの話し合いとはべつ話題について話している。

エ 前の人の発言でわからなかったことを、しつ問している。

解答と解説

問題1 話し合いの司会をしているのはだれですか。ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

ア 田村さん イ 大石さん ウ 水野さん エ 西口さん

ア

問題2 (1) (1)にあてはまるものを、ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

ア そこで、野さいをたくさん使うことにしました。  
イ それでも皮をすててはいけないと思います。  
ウ しかし、中には皮が食べられないものもあります。  
エ だから、料理の仕方をよく調べるのが大切です。

ウ

問題3 (2) 「よい考え」とありますが、それはどのようなことですか。本文に書かれたことをもとに、ア～エにあてはまるように書きましよう。

野さいの皮をむかずに使うようにするが、皮をむく場合は、

土にうめて、ひりょうにする

という考え。

問題4 (3) ③の田村さんの発言は、話し合いの中でどのような役わりをしていますか。ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

ア 前の人(田村さん)の発言に対して、自分の意見を述べている。  
イ これまでの話し合いの内容をまとめている。  
ウ これまでの話し合いとはべつの話題について話している。  
エ 前の人(田村さん)の発言でわからなかったことを、しつ問している。

イ

問題2

(1) (1)の前と後の文をよく読んで考えます。

(1) (1)の前は、「食品のおだをなくすために、野さいの皮をむかないで使うとよい」ことが書かれています。この内ようにつながるものをえらぶと、ウかエがあてはまります。

では、(1) (1)の後はどうでしょうか。「友だちの家では皮をむくけれど、それを土にうめてひりょうにしている」とあります。この文につながるのはウです。

(1) (1)にウをあてはめて読んでみると、「食品のおだをなくすために、野さいの皮をむかずに使うとよい。しかし、中には皮が食べられないものがある。ところが、友だちの家では皮はむくけれど、それを土にうめてひりょうにしている。」と、意味がながった文章になります。このような問題を考えるときは、前と後の文の意味がながるように考えましよう。

問題3

田村さんの発言には「二つの意見を合わせると、②よりよい考えがうかぶかもしれませんね。」とあります。二つの意見とは、「食品のおだをなくすために、野さいの皮をむかずに使うとよい」と、(野さいの皮を)土にうめてひりょうにしている「ことです。この二つをまとめると、「よりよい考え」になります。

また、本文を写すだけでは、「土にうめて、ひりょうにしている」となりますが、答えには、「く」という考え「につながるように、「土にうめて、ひりょうにする。」という考え。」と書きましよう。

答えは「(野さいの皮をむかずに使うようにするが、皮をむく場合は、)土にうめて、ひりょうにする(という考え)」です。

問題4

(3)で、田村さんは「それでは、わたしたちのグループでは、かんきょうを守るためにできることをクラスみなさんに書いてもらい、それをまとめる記事を書くことにしたいと思います。」と言っています。これは、ここまでの話し合いで出たみんなの発言を、全体のけつろんとしてまとめているのです。答えはイです。

問題1

話し合いの話題や目玉にに合わせて、話し合いを進めるのが司会の仕事です。この問題では、何について話し合うかを始めに発言したり、途中で話の内ようをまとめるなどの役わりをしている人の名前を答えます。答えは田村さんです。

話し合いの場面が書かれた文章を読むときは、司会以外の人の発言についても、その発言が意見を言っているのか、だれかにしつ問をしているのか、などに気をつけて読むことが大切です。

また、話題について、話し合いをしてどのようなけつろんになったのかを、理かいするようにましよう。

## 問題

## 話すこと・聞くこと②

名前

年

組

次の文章は、中野さんたちが、一年生をむかえる会で、何をするかを話し合ったものです。これを読んで問題に答えましょう。

中野…今日は、一年生をむかえる会で、何をするかを話し合います。あらかじめ出してもらった意見が四つあります。そのうちのどれがよいか、決めたいと思います。

- ・合しよう
- ・学校しようかい
- ・人形げき
- ・いっしょにできるゲーム

中野…では、意見を出した人は、なぜそれがよいと思ったのか、理由をせつ明してください。

青野…わたしは、合しようをていあんしました。なぜなら、アニメの主題歌など、一年生でも知っている歌なら、いっしょに歌ったりして、楽しんでもらえると思うからです。

西川…わたしは、学校しようかいをていあんしました。プールや体育館などの広さをしようかいして、学校のことを知ってもらうとよいと思うからです。

野口…ぼくは、人形げきをていあんしました。一年生も知っている昔話の人形げきなら、楽しんでもらえると思うからです。

小林…ぼくは、いっしょにできるゲームがよいと思いました。カルタやしりとりなど、かんたんなゲームなら、みんながながよくできると思うからです。

中野…①四人の発言を聞いて、何か意見はありますか。

山田…一年生をむかえる会なので、（ ）という理由の、合しようか人形げきがいと思います。

中野…なるほど。そのほかに意見はありますか。

林…一年生をむかえる会まで、もうあまり日がないので、②じゅんびがかんたんなものがよいと思います。

林…せっかくの会なので、③一年生もさんかできて、なかよくなれるものにしたかどうかでしょうか。

野口…さんせいです。

山田…林さんの意見を聞いて、わたしもそのほうがよいと思いました。

（話し合いがつづきます。）

問題1

——①「四人の発言を聞いて、何か意見はありますか。」という中野さんの発言を聞いて、自分の意見を言ったのはだれとだれですか。名前を答えましょう。

問題2

山田さんの発言の（ ）の部分には、どのような言葉があてはまりますか。次のア～エからえらんで、記号を書きましょう。

- ア わたしたちのことを知ってもらえる
- イ 学校生活になれてもらえる
- ウ みんなでいっしょに楽しめる
- エ 一年生に楽しんでもらいたい

問題3

話し合いに出た四つのていあんを、次のような表にまとめてくらべることにしました。後の「じゅんびについて」の発言を読んで、表の空いている部分にあてはまるていあんを書きましょう。

	じゅんびに時間がかかる	じゅんびがかたん
一年生も さんかできる		
一年生は さんかできない		人形げき

「じゅんびについて」

青野：合しようは、曲を決めて、みんなで歌う練習をします。一年生といっしょに歌う係の人  
も決めておき、一年生のところに行くようにします。

西川：学校ようかいは、プールや体育館の写真を取り、そのせつ明を書いた大きな紙をじゅ  
んびします。一年生に話す人は、わかりやすくせつ明できるように練習します。

野口：人形げきは、先月のお楽しみ会の子の人の人形げきを、そのままやるとよいと思います。  
人形もあり、せりふもおぼえているので、じゅんびに時間はかかりません。

小林：いっしょにできるゲームは、カルタなど、一年生にもできそうなものをえらんで用意し  
ます。じゅんびはこれだけで、三年生と一年生がまざったチームを作ると、なかよくで  
きてよいと思います。

問題4

——②「じゅんびがかたんなもの」で、——③「一年生もさんかできて、なかよくなれ  
るもの」は、四つのていあんのうちのどれですか。右の表を見て答えましょう。

解答と解説

問題1 ①四人の発言を聞いて、何か意図はありますか。という中野さんの発言を聞いて、自分の意見を言ったのはだれとだれですか。名前を書きましょう。

山田(さん) 林(さん)

問題2 山田さんの発言の( )の部分には、どのような言葉があてはまりますか、次のア～エからえらんで、記号を書きましょう。

- ア わたしたちのことを知ってもらえる  
イ 学校生活になれてもらえる  
ウ みんなでいっしょに楽しめる  
エ 一年生に楽しんでもらいたい

エ

問題3 話し合いに出た四つのていあんを、次のような表にまとめてくくへることにしました。後の「じゅんびについて」の発言を読んで、表の空いている部分にはまるめていあんを書きましょう。

一年生も さんかできる	じゅんびに時間がかかる	じゅんびがかんたん
合しよう		いっしょにできるゲーム
学校しようかい	人形げき	

「じゅんびについて」

青野…合しようは、曲を決めて、みんなで歌う練習をします。一年生といっしょに歌う係の人

も決めておき、一年生のところに行くようになります。

西川…学校しようかいは、プールや体育館の写真をとり、そのせつ明を書いた大きな紙をじゅん

びします。一年生に話す人は、わかりやすくせつ明できるように練習します。

野口…人形げきは、先月のお楽しみ会ときの人形げきと、そのままだとよいと思います。

人形もあり、せりふもおぼえているので、じゅんびに時間ばかりりません。

小林…いっしょにできるゲームは、カルタなど、一年生にもできそうなものをえらんで用意を

します。じゅんびはこれだけで、三年生と一年生がまざったチームを作ると、なかよくで

きてよいと思います。

問題4 ②「じゅんびがかんたんなので、」③「二年生もさんかできて、なかよくで

るものは、四つのでいあんのうちどれですか。右の表を見て答えましょう。

いっしょにできるゲーム

問題1

話し合いの場面を読むときは、だれがどのような発言をしたか、また、その発言に対して、だれがどのように答えたかにも気をつけて読みましょう。

この問題では、司会の中野さんが「四人の発言を聞いて、何か意見はありますか。」と聞いたことに對し、だれが自分の意見を言ったのかを答えます。

まずは中野さんの問いかけの後、山田さんが「二年生をおかえる会なので、( )という理由の合しようか人形げきがよいと思います。」と意見を言っています。

その次の中野さんの発言に注意しましょう。「なるほど。そのほかに意見はありますか。」と言った山田さんのほかにも意見がないか、聞いています。すると、林さんが「せつかくの会なので、一年生もさんかできて、なかよくになれるものにしたらどうでしょうか。」と意見を言っていることがわかります。ひとつの問いかけに對し、二人より多い人が答えることもあるので、気をつけるようにしましょう。答えは「山田(さん)と、林(さん)」

です。

問題2

「一年生をおかえる会なので、( )という理由の、合しようか人形げきがよいと思います。」という山田さんの発言をよく読んで考えましょう。

( )には、合しようか人形げきをていあんした理由があてはまります。ていあんした理由が、合しようか人形げきとて同じだということです。そこで、それぞれのていあんをした人の発言から、理由が書かれた部分をさがしましょう。

青野…わたしは、合しようをていあんしました。なぜなら、アニメの主題歌など、一年生でも知っている歌なら、いっしょに歌ったりして、楽しんでもらえると思うからです。

野口…ぼくは、人形げきをていあんしました。一年生も知っている昔話の人形げきなら、楽しんでもらえると思うからです。

それぞれのていあんの理由を読むと、どちらも「楽しんでもらえると思う」が同じです。そして、だれに楽しんでもらうかという点、一年生です。そこで、答えはエになります。

問題3

四つのでいあんを表にあてはめる問題です。まずは、表のどこに、何を入れるとよいかを考えましょう。

表を見ると、たては「じゅんびに時間がかかるか、かんたんか」を、横は「一年生にさんかできるか、できないか」を、それぞれはんだんして、あてはめればよいとわかります。

そこで、後にある「じゅんびについて」の発言を読んで、それぞれのていあんが表のどこにあてはまるかを考えましょう。

すると、「合しよう」は、一年生もさんかできること、じゅんびに時間がかかることがわかります。ほかのていあんも同じように考えて、表にあてはめていきましょう。

問題4

問題3の表をもとに、「じゅんびがかんたんなので、一年生もさんかできる」ものをえらんで答えます。答えは「いっしょにできるゲーム」です。

問題

書くこと

名前

年

組

次の文章は、田中さんがおばあさんにあてて書いた手紙です。これを読んで問題に答えましょう。

おばあさん

お元気ですか。夏休みは水族館につれていってくれて、  
どうもありがとうございます。

さて、もうすぐぼくの通う北小学校で運動会があります。

ぼくは、50メートル走と学級対こうりレーに出ます。また、  
三年生全員がさんかするそう作ダンスもみんなといっしょ  
におどります。

運動会は十月十日の朝九時から始まります。場所は北小学  
校のグラウンドです。ぜひ見に来てください。

九月十五日

田中あきら

## 問題1

田中さんの手紙は何のために書かれたのでしょうか。ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

- ア 北小学校の場所をせつ明するため  
イ おばあさんが元気でいるかどうかをたずねるため  
ウ 運動会があることを知らせるため  
エ 夏休みのお礼と感しやの気持ちをつたえるため

## 問題2

この手紙の——の部分にくわしくするために書きたすとすれば、次のうちどれを入れるとよいですか。ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

- ア 北小学校は、北町駅から東に歩いて三分くらいのところにあります。  
イ 北小学校のグラウンドには、春になるとさくらがきれいにさきます。  
ウ 運動会が終わると、その後には遠足があります。  
エ 北小学校の三年は三組まであります。

## 問題3

これは手紙を書く前に、田中さんが作ったメモです。メモのア～エのうち、手紙に書かれていないのは、どれですか。記号を書きましよう。

- ア 運動会が開かれる日時と場所  
イ 自分が出場するきようぎ  
ウ おばあさんへのあいさつとお礼  
エ ダンスの曲と内よう

## 問題4

田中さんはおばあさんに手紙を送る前に山本さんに読んでもらいました。次の文章は、手紙を読んだ山本さんが田中さんと話したことです。——の「その」と「とは、どのよう

なことですか。□にあてはまるように書きましよう。

山本…田中さんが書いた手紙を読みました。なぜ、この手紙を書こうと思ったのですか。  
田中…リレーのせん手になって、うれしかったからです。走るところを見てもらいたいと思いました。

山本…それはうれしいですね。それでは、そのことも書いてはどうでしょう。  
田中…そうですね。自分の気持ちですが、もっとつたわると思うので、書きたすことにします。

見てもらいたいということ。

解答と解説

問題1 田中さんの手紙は何のために書かれたのでしょうか。アイエからえらんで、記号を書きましょう。

- ア 北小学校の場所をせつ明するため  
イ おばあさんが元気でいるかどうかをたずねるため  
ウ 運動会があることを知らせるため  
エ 夏休みのお礼と感謝の気持ちを伝えるため

ウ

問題2 この手紙の「」の部分にくわしくするために書きたす記号は、次のうちどれを入れるようにですか。アイエからえらんで、記号を書きましょう。

- ア 北小学校は、北町駅から歩いて三分ぐらいのところにあります。  
イ 北小学校のグラウンドには、春になるとぐらきれいになります。  
ウ 運動会が終わると、その後には遠足があります。  
エ 北小学校の三年は三組まであります。

ア

問題3 これは手紙を書く前に、田中さんが作ったメモです。メモのアイエのうち、手紙に書かれていないのは、どれですか。記号を書きましょう。

- ア 運動会が開かれる日時と場所  
イ 自分が出場するきようぎ  
ウ おばあさんへのあいさつとお礼  
エ ダンスの曲と内よう

エ

問題4 田中さんはおばあさんに手紙を送る前に山本さんに読んでもらいました。次の文章は、手紙を読んだ山本さんが田中さんに話したことです。「そのこと」とは、この文章の「」にあてはまるように書きましょう。

山本…田中さんが書いた手紙を読みました。なぜ、この手紙を書くと思ったのですか。  
田中…「リレーのせん手」になって、うれしかったからです。走るところを見てもいいと思  
ました。  
山本…それはうれいすね。それでは、そのことも書いてはどうしょう。  
田中…そうですね。自分の気持ちも、もったつたわと思うので、書きたすことにします

(れい)リレーのせん手になつてうれしかったので、走るところを

見てもらいたいということ。

問題1

手紙を書くときは、相手に何をつたえたいのかはつきりわかるように書きます。この問題の手紙は、田中さんがおばあさんに送ったものです。いちばんつたえたいことが何かを読み取りましょう。  
書き出しの文は、あいさつの言葉です。田中さんがつたえたいことは、その次の文から書かれています。  
まずは、運動会があること、そして、自分がどんなきようぎに出るか。さらに、運動会が行われる日時と場所を書き、最後に、「ぜひ見に来てください。」と、田中さんの気持ちを表わしています。つまり、この手紙は、あいさつの言葉のほかは、すべて運動会について書かれています。何のために書かれたかというところ、運動会があることを知らせるため、答えはウです。

問題2

「」の部分には、何が書かれているかを読み取りま

「運動会は十月十日の朝九時から始まります。場所は北小学校のグラウンドです。」とあるので、書かれているのは、運動会の行われる日時と場所についてです。手紙を書いた目的は、運動会のあん内なので、これをさらにわかりやすくするには何を書けばよいのかを考えましょう。

アを読むと、「北小学校は、北町駅から東に歩いて三分ぐらいのところにあります。」とあります。これはあん内を読んだ人が運動会に来やすくなるように、場所をさらにくわしく書いたものです。イにも、運動会が行われる北小学校のグラウンドのことが書いてありますが、運動会のあん内とはかん係がありません。したがって、答えはアです。

問題3

手紙を書く前には、どんなことを書くのかをメモに書いてみると、つたりやすい手紙になります。メモに書いたことをすべて手紙に書くひつようはありません。言いたいことがはつきりわかるように、大事なことをえらんで手紙に書くといいでしょう。

この問題は、田中さんがメモには書いたけれど、実際の手紙には書かなかったことをえらぶものです。そこで、田中さんのメモと、書いた手紙をくらべてみましょう。すると、ダンスの曲と内ようについて、手紙には書かれていないことがわかります。答えはエです。

問題4

山本さんの発言の、「それはうれいすね。それでは、そのことも書いてはどうでしょう。」の「そのこと」とは、どのようなことを考えましょう。

山本さんのこの発言の前に、田中さんは「リレーのせん手になって、うれしかったからです。走るところを見てもらいたいと思います。」と発言しています。これが田中さんのうれしかったことで、山本さんは、それを手紙に書いてはどうかと言っているのです。

答えを書くときは、「リレーのせん手になってうれしかったので、走るところを(見てもらいたいということ)」のように、「見てもらいたいということ。」につながるように書きましょう。

## 問題

## 読むこと①

名前

年

組

次の文章を読んで問題に答えましょう。なお、①から④の数字は、段落の番号を表しています。

① 日本には、古くから続く<sup>A</sup>いくつもの行事や習<sup>しゅうじ</sup>かんがありますが、その多くに共通<sup>きょうつう</sup>するのが、わざわざいを遠<sup>とほ</sup>ざけ、健康<sup>けんこう</sup>であることを願<sup>ねが</sup>う気持ち<sup>きもち</sup>がこめられていることです。

② たとえば、一月七日には、一年間、病<sup>びよう</sup>気やケガをせずに無<sup>む</sup>事にすこせることをいのって、春の七草を入れた「七草がゆ」を食べます。節分<sup>せつぶん</sup>には、「鬼<sup>おに</sup>は外」と言いながら豆<sup>まめ</sup>をまきます。また五月五日のた<sup>た</sup>んごの節句<sup>せっく</sup>には、わざわざいはらうため、おふろにしょうぶの葉<sup>は</sup>を入れたしょうぶ湯<sup>ゆ</sup>に入ります。では、このような行事<sup>じ</sup>のときに<sup>B</sup>七草や豆<sup>まめ</sup>、しょうぶの葉<sup>は</sup>を用<sup>もち</sup>いるのはなぜでしょうか。

③ これらはどれも、特別<sup>とくべつ</sup>な力が宿<sup>やど</sup>っていると考えられてきた植物<sup>しよくぶつ</sup>です。人間の力<sup>ちから</sup>がおよばないわざわざい<sup>たい</sup>に對<sup>たい</sup>し、これらの植物<sup>しよくぶつ</sup>が持つ力<sup>ちから</sup>をかりて、悪いもの<sup>わるもの</sup>を追<sup>お</sup>いはらおうと考えたのです。新春<sup>しんしゅん</sup>に雪の間に顔<sup>かお</sup>を出した新しい葉<sup>は</sup>には、悪いもの<sup>わるもの</sup>を遠<sup>とほ</sup>ざける力<sup>ちから</sup>があり、生命<sup>せいめい</sup>のみなものである豆<sup>あめ</sup>などのこく物<sup>もの</sup>には、悪い気<sup>わるき</sup>をはらう力<sup>ちから</sup>があると信<sup>しん</sup>じられていました。また、しょうぶの葉<sup>は</sup>も、強い<sup>つよ</sup>かおりでわざわざいをはらう力<sup>ちから</sup>があるとされてきました。

④ 科学<sup>かかく</sup>が発達<sup>はったつ</sup>した今の世<sup>よ</sup>の中に、このような古<sup>ふる</sup>くからの習<sup>な</sup>わしが続<sup>つづ</sup>いているのはどうしてでしょうか。地<sup>ち</sup>しんや台風<sup>たいふう</sup>などの自然<sup>しぜん</sup>さいがい<sup>がい</sup>は、今<sup>いま</sup>でも多くの人<sup>ひと</sup>を苦しめることがあります。また、ただ<sup>ただ</sup>だけ医学<sup>いがく</sup>が発達<sup>はったつ</sup>しても、人<sup>ひと</sup>は病<sup>びよう</sup>気からのがれることはできません。このよう<sup>よう</sup>な、人間<sup>にんげん</sup>の力<sup>ちから</sup>ではどうすることもできないことから身<sup>み</sup>を守<sup>まも</sup>り、幸<sup>しあ</sup>せをいのるとい<sup>い</sup>う気持<sup>きもち</sup>ちは、今<sup>いま</sup>も昔<sup>むかし</sup>も変<sup>か</sup>わりがないから、行事<sup>ぎぎ</sup>や習<sup>しゅうじ</sup>かんは今<sup>いま</sup>に続<sup>つづ</sup>いているのでしょうか。

問題1

——A「いくつもの行事や習かん」に同じであるのは、どのようなことですか。ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

- ア 健康のために、体によいものを食べること。
- イ さいがいや病氣などを遠ざけ、健康を願うこと。
- ウ 特別な力を持つ人たちが神にいのること。
- エ わざわいをさけるため、科学の発達を願うこと。

☐

問題2

——B「七草や豆、しょうぶの葉を用いるのはなぜでしょうか。」とありますが、その理由をア～エからえらんで、記号を書きましよう。

- ア 特別な育て方をする、わざわざいを追いはらう力が宿ると考えたから。
- イ 人間の力がおよばないわざわざい起きたとき、身代わりになると考えたから。
- ウ 特別な力が宿っており、わざわざいを追いはらう力があると考えたから。
- エ 悪い力が宿っている、遠ざけなければいけないと考えたから。

☐

問題3

次の会話文は、この文章を読んで、赤井さんと黒田さんが話し合ったものです。これを読んで①と②の問題に答えましよう。

赤井…古くからの行事や習かんが、なぜ今でも行われているのかがわかりました。

黒田…そのような習かしには、わざわざいから身を守り（ ）気持ちがかめられて

赤井…ふだんはあまり考えたことがありませんでしたが、身近なれいもたくさんあるんですね。

黒田…ほかにもそのような行事があるか、調べてみたいですね。

① 黒田さんの発言の（ ）にあてはまる言葉を本文からぬき出して、ます目に合うようにして書きましよう。


② ——「身近なれいとありますが、そのれいが書かれているだん落はどれですか。□に数字を書きましよう。

第

だん落

これは見本です

解答と解説

問題1 — A「いつもの行事や習かん」に同じであるのは、どのよな文ですか。ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

ア 健康のために、体によいものを食べる。

イ さいがいや病氣などを遠ざけ、健康を願うこと。

ウ 特別な力を持つ人たちが神にいのること。

エ わざわいをさけるため、科学の発達を願うこと。

イ

問題2 — B「七草や豆、しょうぶの葉を用いるのはなぜでしょうか。」とありますが、その理由をア～エからえらんで、記号を書きましよう。

ア 特別な育て方をすると、わざわいを追いはらう力があると考えたから。

イ 人間の力がおよばないわざわいが起きたとき、身代わりになると考えたから。

ウ 特別な力が宿っており、わざわいを追いはらう力があると考えたから。

エ 悪い力が宿っているので、遠ざけなければいけないと考えたから。

ウ

問題3 次の会話文は、この文章を読んで、赤井さんと黒田さんが話し合ったものです。これを読んで①と②の問題に答えましよう。

赤井… 古くからの行事や習かんが、なぜ今でも行われているのがわかりました。

黒田… そのような習わしには、わざわいから身を守り（ ）気持ちさがこめられているんですね。

赤井… ふだんはあまり考えたことがありませんでしたが、身近なれいもたくさんあるのですね。

黒田… ほかにそのような行事があるか、調べてみたいですね。

① 黒田さんの発言の（ ）にあてはまる言葉を本文からめき出して、まず目にあうようにして書きましよう。

幸せをいのる

② 「身近なれいとありますが、そのれいが書かれているだん落はどれですか。□に数字を書きましよう。

第2だん落

問題1

— Aのある文を読むと「Aいつもの行事や習かんがあります、その多くに同じであるのが、わざわいを遠ざけ、健康であることを願う気持ちさがこめられている」とあるので、これと同じ内よりのものをえらびます。

すると、本文の「わざわい」が、イでは「さいがいや病氣など」となっていますが、同じことが書かれているとわかります。答えはイです。

「さいがいや病氣」を、「わざわい」に言いかえているのです。

問題2

第2だん落には、七草がゆ、節分、しょうぶ湯について書かれています。この第2だん落の最後の文が、「B七草や豆、しょうぶの葉を用いるのはなぜでしょうか。」と、この問いかけについて、筆者は次の第3だん落に「これらはどれも特別な力が宿っていると考えられてきた植物です。人間の力がおよばないわざわいに対し、これらの植物が持つ力をかりて、悪いものを追いはらおうと考えたのです。」と、答えをしめています。「これらの植物が持つ力」とは、「特別な力」で、「悪いものを追いはらう力」です。したがって、答えはウです。

問題3

① 会話文を読んで、空いている部分にあてはまる言葉を考えます。

始めに赤井さんが「古くからの行事や習かんが、なぜ今でも行われているのがわかりました。」と、行事や習かんが続いている理由がわかったと言っています。

そこで、古くからの習わしが続いている理由が書かれている部分を本文からさがしましよう。

すると、第4だん落に「このよな、人間の力ではどうすることもできないことから身を守り、幸せをいのる」という気持ちは、今も昔も変わりがいから、行事や習かんは今に続いているのでしよう。」とあります。

これについて、黒田さんは「そのよなな習わしには、わざわいや病氣などから身を守り、（ ）気持ちさがこめられているんですね。」と言っています。

（ ）にあてはまる言葉を本文からさがすと、「幸せをいのる（気持ち）」があつて、これが答えになります。

このよなな問題では、会話文が本文のどの部分について話しているかを考えて、本文のあてはまる部分をさがしましよう。

② 赤井さんは「身近なれいもたくさんあるのですね。」と言っています。れいとは、古くからの行事や習かんのことで、第2だん落に七草がゆや、節分、たんだこの節句のれいがしめされています。答えは2です。

問題

読むこと②

名前

年

組

次の文章を読んで後の問題に答えましょう。

A 子どものすきな小さい神さまがありました。いつもは森の中で、歌をうたったり笛をふいたりして、小鳥やけものと遊んでいましたが、ときどき人のすんでいる村へ出てきて、すきな子どもたちと遊ぶのでした。

けれどこの神さまは、いちどもすがたをみせたことがないので、子どもたちにはちっともわかりませんでした。

雪がどっさりふった次の朝、子どもたちはまっしろな野うばらで遊んでいました。するとひとりの子どもが、

「雪の上に顔をうつそうよ。」  
といいました。

そこで十三人の子どもたちは、腰をかがめてまっしろな顔をまっしろな雪におしあてました。そうすると、子どもたちのまっしろな顔は、一列にならんで雪の上にうつったのでした。

「一、二、三、四、……」  
とひとりの子どもが顔のあとをかぞえてみました。

B どうしたことでしょう。十四ありました。子どもは十三人しかいないのに、顔のあとが十四あるわけがありません。

きつと、いつものみえない神さまが、子どもたちのそばにきているのです。そして神さまも、子どもたちといっしょに顔を雪の上にうつしたのにちがいありません。いたずらずきの子どもたちは、顔をみあわせながら、目と目で、神さまをつかまえようよ、とそうだんしました。

(新見南吉「子どものすきな神さま」)

これは見本です

問題1

——A「子どもの好きな小さい神さま」について、本文からわかることをア～エから二つえらんで、記号を書きましよう。

- ア 歌をうたったり、笛をふいたりしている。
- イ いつも村にいて、毎日子どもたちと遊んでいる。
- ウ 大人にはみえないが、子どもにはすがたがみえる。
- エ 森の中で、小鳥やけものと遊んでいる。

☐ ☐

問題2

——B「どうしたことでしょう。十四ありました。」とありますが、なぜ顔のあとが十四あったのでしょうか。それがわかる文の、始めと終わりの五字を書きましよう。「や」「を」ふくみます。

始め


終わり


問題3

——C「顔をみあわせながら、目と目で、神さまをつかまえようよ、とそつだんしました。」とあります。これについて、①と②の問題に答えましよう。

① 「目と目でそつだんする」とは、どのような様子ですか。ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

- ア おどろいて声を出すこともできずにいる様子。
- イ 声を出さずに、だまって合図を送りあう様子。
- ウ こわいので、おたがいの顔から目ははなさずにいる様子。
- エ どうすればよいかわからず、こまっている様子。

☐

② なぜそのようにしたのですか。ア～エからえらんで、記号を書きましよう。

- ア 神さまに気づかれないようにするため。
- イ 神さまをおこらせないようにするため。
- ウ ほかの子どもたちに気づかれないようにするため。
- エ ほかの子どもがにげださないようにするため。

☐

解答と解説

問題1 — A「子どものすきな小さい神さま」について、本文からわかることをア～エから二つ選んで、記号を書きましよう。

ア 歌をうたったり、笛をふいたりしている。  
イ いつも村にいて、毎日子どもたちと遊んでいる。  
ウ 大人にはみえないが、子どもにはすがたがみえる。  
エ 森の中で、小鳥やけものと遊んでいる。

ア  
エ

問題2 — B「うしろにたてておこう。十四ありきよ」とありますが、なぜ顔のあとが十四あつたのでしょうか。それがわかる文の、始めと終わりの五字を書きましよう。「や」、「し」をふくみます。

始め  
そして神さ  
終わり  
りません。

問題3 — C「顔をみあわせながら、目と目で、神さまをつかまえようよ」とそうだしめた。とあります。これについて、①と②の問題に答えましよう。

①「目と目でそうだしする」とは、どのような様子ですか。ア～エから二つ選んで、記号を書きましよう。

ア おどろいて声を出すこともできずにいる様子。  
イ 声を出さずに、だまっておどろきあう様子。  
ウ こわいので、おたがいの顔から目はみえなくなる様子。  
エ どうすればよいかわからず、こまっている様子。

イ

②なぜそのようにしたのですか。ア～エから二つ選んで、記号を書きましよう。

ア 神さまに気づかれないようにするため。  
イ 神さまをおこせないようにするため。  
ウ ほかに子どもたちに気づかれないようにするため。  
エ ほかに子どもに気づかれないようにするため。

ア

問題1

問題のA～Eの内よを「子どものすきな小さい神さま」について書かれた部分とくらべましよう。

ア 歌をうたったり、笛をふいたりしている。  
イ いつも村にいて、毎日子どもたちと遊んでいる。  
ウ 大人にはみえないが、子どもにはすがたがみえる。  
エ 森の中で、小鳥やけものと遊んでいる。

いつもは森の中で、ア歌をうたったり笛をふいたりして、エ小鳥やけものと遊んでいましたが、イときどき人のすんでいる村へ出てきて、すきな子どもたちと遊ぶのでした。

けれどこの神さまは、ウい子どもすがたをみせたことがないので、子どもたちにはちっともわかりませんでした。

このようにしてくらべると、正しいのはアとエだとわかります。

イは、「いつも村にいたる」のではなく、「ときどき村へ出てくる」ので、まちがいです。

ウは、「子どもにはすがたがみえる」がまちがいです。神さまは「いももすがたをみせたことがない」のです。

問題2

子どもは十三人しかいないのに、顔のあとを数えると十四あつたのです。本文から、その理由が書かれた部分をさがしましよう。B「どうしたことでしょう。十四ありました。」の少し後に、「きつと、いつものみえない神さまが、子どもたちのそばにきているのです。そして神さまも、子どもたちといっしょに顔を雪の上にうつつしたのにちがいありません。」とあつて、神さまがいっしょに顔をうつつしたから、顔のあとが十四あつたのだとわかります。

ここで、問題に注意しましよう。「それがわかる文の、始めと終わりの五字を書きましよう。」とあるので、一つの文だけが答えになります。

その文とは、「そして神さまも、子どもたちといっしょに顔を雪の上にうつつしたのにちがいありません。」です。この文の始めと終わりの五字を書きます。

始めは「そして神さ」、終わりは「りません。」が答えになります。

問題3

①物語の登場人物の様子を読み取りましよう。問題の場面は、神さまも雪の上に顔をうつつしたことに、子どもたちが気づいたところです。

そこで、いたずらずきの子どもたちは、「顔をみあわせながら、目と目で、神さまをつかまえようよ、とそうだんしたのです。」「目と目でそうだんする」とは、声を出さずに合図を送りあうことです。したがって、イが答えです。

②では、声を出さずに目と目でそうだんしたのはなぜでしょう。声を出すと、神さまに気づかれてしまうと思ったのです。神さまはすがたがみえないので、どこにいるのかわかりません。そこで、用心して目だけを使って合図を送りあっているのです。そこで、アが答えになります。